2025 Summer Vol.309

ラボの世界
THE WORLD OF LABO

01 10代とともに　～やりたいことは自分でつくる
04 祝！　第35回記念　ラボ中国青少年交流
・ホームステイはじまり物語　その1
・旅の記録
07 2025ラボ国際交流　応援特集
・応援メッセージ
・事前の準備活動
09 ラボ国際交流50年記念　交流のエピソード
10 東京言語研究所　公開講座
～言語の主体性：あるSF作家の事例
理事会・評議員会報告
11 Go Ahead！　～長崎県・マッカーシー 内田えみ子氏
Information

中国への訪問プログラムが6年ぶりに再開，ラボ中国青少年交流は35回目の訪問が実現しました。4月1日には李可染画院を訪問し，SK18『西遊記』の画家・李庚氏とも交流しました。

Labo International Exchange Foundation
Rowing to Another Dawn
Since 1973

10代とともに

中田裕之

Nakada Hiroyuki

相鉄ホールディングス株式会社 経営戦略室第三統括担当（人財政策担当兼務）。「地域に根差した仕事を」という思いで，2000年入社。駅係員，車掌，運転士を経て，電車部運転課，安全対策部，人事・労務など，さまざまな業務を勤める。

やりたいことは自分でつくる

幼少期から，神奈川県の相鉄線が通る地域で過ごしてきた中田さん。「地域に根差した仕事を」と，就職活動時の第一志望だった相鉄グループに入社されたそう。鉄道関係だけではなく，さまざまな事業を展開する相鉄グループのなかで，10以上の部署で働かれたご経験と，日々の業務でたいせつにされている思いをうかがいました。

2000年に相鉄グループに入社して，まずは横浜駅の係員として働きました。そのあとは，車掌をやりました。車掌の業務というのは，電車のいちばん後ろに乗って，「次は一，横浜一」というようなアナウンスをしたり，ドアの開閉をしたりします。そしてそのあと，電車の運転士を2年間。続いて本社に移り，運転課に配属されました。そこでは，電車の運行ダイヤをつくる仕事をしました。そして29歳のときにまた駅に戻り，副駅長をやって，そのあとは安全対策部にいきました。

そして2005年。全国的なニュースとなった，JR福知山線列車事故が起きました。実際に兵庫県の事故現場に行って，事故の怖さを目の当たりにしました。そうしているうちに，今度は東日本大震災が起きました。計画停電もありましたので，電車のダイヤを急遽つくるなど，対応に追われたのを，よく覚えています。

そのあと，人事・労務の部署など，さまざまな業務に携わりました。相鉄線の電車の色を新たにネイビーブルーに変更したり，ホームにある，ホームドアを設置する計画を取りまとめる立場で働いていたこともありました。

総務部で働いているときに，警察署と関わりがありました。そこで，以前から，横浜駅西口には，目立った待ち合わせ場所がなくて不便だなと感じていることを相談し，交番の壁を，相鉄グループのマスコットキャラクター「そうにゃん」のデザインにさせてもらったんです。こんなふうに，町を少しずつ良くしていくことも，仕事の喜びのひとつなんですよ。みなさんもぜひ待ち合わせにつかってみてくださいね。

10億円と2,000人の命

駅員，車掌を経験したのち，運転士になるというのが基本的なルートです。運転士になるには，まずは学科があります。机に座って勉強するんです。そこで，数学的なこととか，電車の構造のことを4か月学びます。そして学科試験に合格すると，運転の練習がはじまります。電車の運転の練習って，どういうところでやると思いますか？　じつは，実際にみなさんが乗っている電車でおこなうんです。半年間，先生である先輩運転士とマンツーマンで練習します。ほんとうに厳しい半年間です。

最初はまったくわからないので，先生が運転している姿を，横に立ってずっと見ているだけです。5回目くらいの乗車のときから，自分で運転席に座るのですが，見ていただけなので当然運転することはできません。なので，後ろから先生が手をとって，自分は操り人形のようになって運転します。そうやって少しずつ運転を身体で覚えていくんです。

駅員って，いつ家に帰っていると思いますか？　じつは，駅員は24時間勤務なのです。シフトにもよりますが，朝出勤すると，次の日の朝まで仮眠をとりながら勤務するんです。なので，みなさんがふだん使っている駅の裏側には，ちゃんと台所があって，お風呂も寝室もあるんですよ。そこで一日生活をしているんです。

電車の値段って，いくらくらいだと思いますか？　だいたい，1両1億円くらいです。なので，10両編成の電車だと，10億円くらいになりますね。朝の通勤ラッシュだと，2,000人くらいの人を乗せて走るわけですから，10億円と，2,000人の命を預かっている仕事ということになります。私はそこにとてもやりがいを感じていました。雨や雪の日は，ブレーキをかけても滑ってしまって，なかなか

10代とともに

うまくいきません。でも，うまく停車できたときには達成感があります。なので，車の運転や，機械を操作するのが好きな人には，運転士の仕事がむいているかもしれませんよ。

笑顔がやりがい

私が相鉄グループで働いていて，かたちに残るもっとも大きな仕事は二俣川駅構内の「SOTETSU GOODS STORE」をつくったことです。簡単なことではありませんでした。

「SOTETSU GOODS STORE」をつくった場所は，改札を出て運転免許センターに向かうほうにあります。なので，ふだんから相鉄線を利用している人たちだけではなく，はじめて二俣川駅を利用する人たちも多く通る，とてもいい立地なんです。いわゆる一等地というやつです。なので，そこには有名なチョコレート屋さんだとか，パン屋さんだとか，売り上げの見込めるテナントを誘致しようという意見が出ていました。しかし私は，はじめて訪れる人たちが多いのであればあえて，相鉄を好きになってもらうためのアピールとして，当時売り出し中だった相鉄のマスコットキャラクター「そうにゃん」のグッズも扱う「SOTETSU GOODS STORE」を提案したんですね。

たしかに売り上げもだいじですが，都心にも直通列車が延びることになっていたし，そうにゃんは子どもに人気が出てきたところですし，お金ではなく，相鉄線のブランドイメージの普及にこの場所を利用すべきと語りました。なんとかうまく説明することができ，結果として「SOTETSU GOODS STORE」をひらくことができました。店内には，そうにゃんのぬいぐるみを並べ，子どもが運転士になりきれるような運転台も設置しました。

やりはじめると，意外と売り上げも好調でした。運転台で楽しそうに遊ぶ子どもを見たときに，「あー，やってよかったな」ととてもうれしかったのを覚えています。些細なことですが，お子さんをはじめ，お客さまの笑顔を見られる瞬間が私の仕事のやりがいとなっています。

生まれ育ったこの場所のために

こんなお話があります。道を歩いていると，レンガを積んでいる３人のレンガ職人に出会いました。そのうちのひとりに「何をしているんですか？」と話しかけると，「めんどうだけどレンガを積んでいるんだよ。疲れたよ」と答えました。２人目のレンガ職人に話しかけると，「大きな壁を作ってるんだよ」と答えました。そして３人目は「歴史に残る大聖堂を作っているんだ，すごいだろ！」と答えました……。

３人とも，「レンガを積んでいる」ということは同じですが，モチベーションはまったく違います。みなさんは，どんなふうに働きたいですか？　私もさまざまな部署を異動し，その都度，やることも変わっていきました。ですが，「なんのためにやっているんだろう？」と考えて，その目的をどこにもっていくかによって，仕事の意義がものすごく変わるのです。私の場合，どんな仕事をしていても，「地域に根差した仕事を，地域のためにがんばろう」という思いを忘れずに働いています。

やりたいこと，やりたくないこと

就職活動をしているときの第一志望が相鉄グループでした。私が小学生のときに母親が亡くなり，父と祖父母と暮らしていました。なので，なるべく家族の近くで仕事がしたいと思って，転勤のない仕事を探していました。それと，生まれ育った場所の近くに「緑園都市」というところがあり，そこは，私が幼い頃は山しかないようなところだったんです。そこから時間が経つにつれて，きれいなマンションが建ったり，道もきれいに整備されていきました。山がだんだんときれいな町になっていくのが，なんだかおもしろく感じて，自分も町をつくってみたいな，こんな仕事をしてみたいなあと思ったんです。

鉄道ってすごく生活に関わるものだし，町づくりにも興味があったので，鉄道会社で働きたいと思いました。数ある鉄道会社のなかから相鉄を選んだのは，やはりいちばん身近だったから。実際に入社してからも，自分の「やりたいこと」ができていると感じています。どの部署にいっても，「やりたいこと」に関われていると感じ，やりがいをもって仕事をしています。なので，自分の軸をもっておくことがたいせつだなと思っています。もしもほかの会社にいっていたら，そのやる気も続かなかったかもしれません。なのでみなさんも，ここから先に進

んでいくうえでは「やりたいこと」にしっかりとむきあってほしいです。そうしておけば，モチベーションにつながって，良い方向にむかうはずですよ。とはいえ，「やりたい仕事」を探すのはなかなか難しいですよね？　それがふつうだと思います。そんなときは，「やりたい仕事」を探すのではなく，「自分が何をしたいか」みたいに，もう少し大きく考えてみてほしいです。そのほうが，少しイメージをふくらませやすいかなと思います。私の場合は，結果的には相鉄に入社しましたが，就職先を考えているときには「地域密着」と考えていたので，「地元の銀行」や「市役所」なんかも視野にいれて就職活動をしました。

たとえば「ケーキが好き」であれば，ケーキ屋さんで働くというのが浮かぶと思います。でも，「甘い物が好き」というふうに考えたら，「お菓子のメーカー」で働くのもいいかもしれません。「料理全般が好き」なら，料理屋さんでも，食品メーカーでも，たくさんの職種があります。やりたいことは何かなと考えていくと，結構自分の可能性がひろがっていくかもしれませんよ。

若いうちからやりたいことが見つかるというのは，ほんとうにまれだと思います。なので，高校生のうちにやりたいことが見つからない場合には，やりたいことを探すために大学にいくというのでもいいと思っています。そして大学でも見つからなかったら，一度就職して，仕事をしながらやりたいことを探せばいいんです。いつまでに決めなければいけないなんていうゴールはないんですから，あせる必要はありません。

私の場合，転勤のない仕事を探していて，結果的に相鉄グループに入社しました。つまり，「転勤したくない」というのが，最初の条件だったともいえるわけです。なので，やりたいことがなかなか見つからないのであれば，「これはしたくない，やりたくない」というふうに考えて，消去法で探してみるのもいいかもしれませんね。

それから，やっぱり学生のうちは，とことん遊んでいいと思います。社会人になると，多少お金はできても，なかなか時間がとれません。いまのうちに自由に遊んでください。遊びじゃなくてもいいんです。習い事でもなんでも，今やりたいことを，とことんやりきってほしいです。

（文責：編集部）

インタビューを終えて

［取材協力］神奈川県のラボ･パーティ
前田祥子Ｐ，下田弥生Ｐ，佐山有紀子Ｐ

前田祥子パーティ

●篠崎和奏（中３）ひとつの会社のなかでもいろいろな仕事にふれることで，見方が変わったり新しい発想が生まれるというのがすてきだなと思いました。私も，これから多くの経験をして，たくさんの考え方をもてるおとなになりたいです。●石川史織（中３）私がいちばん記憶に残っているのは，電車の事故の話です。中田さんはその事故について，年月日から時間まで正確に教えてくれました。それほどまでに衝撃的で，強く記憶に残るできごとだったのだと実感しました。私はまだはっきりとした将来の夢がなく，興味のあることはたくさんあるのですが，どれも自分には合わないような気がして悩んでいました。でも中田さんが，「やりたい仕事」を探すのはなかなか難しいし，それがふつうのこと。「やりたい仕事」を探すのではなく，「自分が何をしたいのか」と，もっと大きな視点で考えてみてほしいという話をしてくださって，とても安心しました。また，「子どものうちは精一杯遊んだほうがいい」と言われたので，今しかできないこと，今やりたいことを，たくさん経験していきたいです。

下田弥生パーティ

●東條伊吹（高３）中田さんのお話を聞いて自分の将来についてとても参考になりました。中田さんは相鉄グループで運転士やダイヤ作成などさまざまな仕事に就かれて，その仕事のお話を聞いたり，ご自身が職に就くまでどのように考えていたりしたかなど，細かい部分まで話してもらいました。「やりたいことを考えるのは難しいけど，やりたくないことは考えやすいよね」と話されていて，それがいちばん印象に残りました。今まで自分は大学受験などの目の前の目標に目がいっていたのですが，このお話を通じて自分がどうありたいのかなどを考えなおすいいきっかけになりました。●永井小鉄(大２）印象に残っているのは，意見の言いあいについてです。全員から同じ意見が出るわけがないし，多数決で決めるのもたしかに良くないと思っていました。だからって自分の意見を言わないのも良くないし，相手の意見を否定して丸めこもうとするのも良くない。だからこそみんなの意見の折衷案で解決する。これらすべてラボでやっていることに通じてるなと思いました。自分は将来やりたいことがまだ決まっていないので，それを見つけるために大学に進学しました。今はまだいろいろなところを右往左往していますが，とにかく途中で投げだしたり後悔しないような選択をしたいと思っているので，今回のお話を糧に将来の自分を見つけていきたいです。

佐山有紀子パーティ

●鳥海心桜（中２）車掌さん，運転士さんのきびしさややりがい，新たな学びもあり，とても楽しい時間になりました。新しい学びというのは，相鉄グループは町の再開発をしていたり，横浜ジョイナスをオープンしていたりと，電車だけじゃなく私たちの生活に深く関連していることに驚きました。

［取材日］2024 年 11 月

祝！第35回記念 ラボ中国青少年交流

☆…コロナ禍における一時中断を経て，2025年春，中国への訪問プログラムが6年ぶりに再開。35回目の訪問が実現しました。第1回ラボ中国青少年交流は，ラボ・パーティ創立20周年とラボ・ライブラリーSK18『西遊記』の発刊を記念して，1986年に開催されました。現在では当たり前になっているホームステイ交流の始まりについて，現地手配を担当している旅行会社「オフィス華林」の林 淑英さんから2回にわたって中国交流の歴史について紹介していただきます。

第1回ラボ中国青少年交流と，初のホームステイ交流を報告する「ラボの世界」

ホームステイはじまり物語 その1

1980年代，中国から大勢の留学生が来日するようになり，私は来日した中国の芸術家たちが日本で作品を発表できるように展示会を開催するお手伝いをしていました。この展示会にラボのスタッフが来場したことがきっかけで，李庚氏がラボ・ライブラリー『西遊記』の絵を描くことになりました。ラボとの縁はここで終わらず，『西遊記』の原画展が開催された際，ラボの事務所を訪れると「中国でホームステイはできますか?」と質問されたのです。

中国大使館の文化参事官から，北京で唯一「日本語を中学校から授業科目として取り入れている学校」があると聞き，ラボのスタッフといっしょに視察に行ったのが，北京市月壇中学との交流の始まりでした。当時はどこの学校も大学受験のために英語を教えていましたが，月壇中学だけは「これから日中関係は必ず進展するはずだから」と日本語を1クラスだけ教えていたのです。とはいえ，週1回だけで，今のように熱心ではありませんでした。

当時の中国は，まだまだ対外的には門戸を閉ざしていたので，万が一，外国人になにかあったら国際的な問題になってしまうと気をつかっていました。そのため一般の家庭に外国人が宿泊することは難しく，ラボの「学生の家にホームステイ（宿泊）したい」という希望を伝えると，「ホームステイって何ですか？　ホームステイして何がおもしろいのですか?」とあっさり言われました。「貧しい中国人の家庭に外国人が宿泊して楽しいのか」「豪華なホテルに宿泊すれば良いのでは」「中国人の貧しい生活を見たいのか」という批判的な意見もありました。それでも「子ども同士の交流で，貧しいとか不便とかまったく関係なく，いっしょに寝泊まりして食事をすることでひとつの家族になる。それが国際理解につながる」というラボの思いに理解を得て，月壇中学との交流1年目の1987年は，まず「ホームビジット（家庭訪問）」から始めることになりました。

学校での授業見学が終わると，いっしょに各家庭に行って夕食を食べ，また学校に戻ってきて別れる，という短時間の交流でしたが，「またおいで」「中国のお母さん，お父さん，ありがとう」と双方が涙する姿が見られました。短い時間でこんなにも情がわくのかと，先生方も驚いていました。

この経験から「ホームステイ」に理解が深まり，ついに1989年，ホームステイ交流が始まりました。政府関係者が立ちあい，テレビ局がニュースとして報道するなど，当時の政治体制を考えると，民間人宅でのホームステイの実現は画期的なできごとでした。校長先生は緊急事態に備えて学校に泊まり込み，学校の簡易ベッドで就寝されたそうです。

外国との交流も形式にこだわっていた時代。「素=自然体」での交流を希望しても，ホームステイ先として選ばれる中国側の家庭は，成績優秀，大きい家，電話がある，ひと部屋確保できる，トイレがある……など，制約があったのも事実です。お互いに試行錯誤の時代が続きました。

（秋号に続く）

2025 中国青少年交流旅の記録

☆…3/26 ～ 4/4まで
参加者18名，スタッフ2名が，
上海外国語大学附属外国語学校と
北京市月壇中学を訪問しました。

交流団体紹介

★上海外国語大学附属外国語学校=日本の中学，高校にあたり，外国語（英語，スペイン語，ロシア語，日本語など）を専門に教えている

★北京市月壇中学=6年制の学校。全学年の外国語の授業に日本語クラスがあり，1972 年の日中国交正常化以降，北京では最大規模で日本語学習に取りくんでいる

上記2校で日本語を勉強している学生宅でホームステイをします。

3/26 水 上海到着

3/27 木

上海外国語大学附属外国語学校で対面式・歓迎式
中国語会話レッスンや民族衣装体験レッスンなど

3/28 金 授業体験

午後はホストもいっしょに
上海市内観光

3/29 土 ホストファミリーと過ごす

3/30 日 学校でお別れ

上海から北京に
移動

北京市月壇中学で
対面式・歓迎式

ラボとの交流の歴史を見る

3/31 月 学校案内

ホストファミリーと

4/1 火 授業体験

午後は李可染画院で
美術体験，
画家の李庚氏も同席

SK18『西遊記』発刊時，「外国語を学ぶとき，その国の物語から入っていくのはすばらしいことだと思う。そうすればその国はぐうっと身近なものになり親しさを増してきます」と語っていた李庚氏。『西遊記』をとおして中国を知った子も多いことだろう。

4/2 水 北京市内観光

万里の長城
&北京動物園

4/3 木 授業体験

ホテルでお別れ

4/4 金 帰国

参加者感想

上海でも北京でも同じだったのが，ホストファミリーは笑顔でむかえてくれたことです！ 北京ではホームシックで泣きました……。だけどホストファミリーがたくさんなぐさめてくれました！ どちらの家族も，「私は，イチゴが好きです♡」と言ったら，イチゴをいつも出してくれました。

小出詩月（小6／香川県・日中早恵子P）

ホストに「きみと別れるのが悲しい」と気持ちを正直に伝えたところ，彼は「この世の中にある世界人口のなかから，ぼくたちふたりが出会えたのはものすごい確率なんだよ！」と言って，そのことばでぼくは泣いてしまった。参加する前の夢は「中国と日本の懸け橋になる」でした。いまのぼくはまだ懸け橋にはなれていませんが，懸け橋のかけ方を知っている人にはなれたと思います。またいつか絶対に中国に再訪問して，本当の懸け橋になりたいです。

真々田啓介（高1／埼玉県・中村ヒトミP）

2025 ラボ国際交流 応援特集

☆…この夏，全国から500名を超える参加者が海を渡ります。もうすぐラボ高校留学から帰国する2名の先輩ラボっ子より，国際交流に参加するみなさんへのメッセージをご紹介します。みなさんの夏の体験が，次の一歩につながりますように。

未来につながる　国際交流体験

本間千然（高３／山梨県・中村 薫Ｐ）

2019年北米交流参加（アメリカ・ミシガン州）
2024-2025年ラボ高校留学参加中（アメリカ・ノースカロライナ州）

中学生で北米交流に参加したときは，日本との違いに大きな不安がありました。でも，ニワトリをバケツで洗い，虹色のアイスを食べ，海のような湖を見て……驚くような価値観に何度も出会い，その「違い」に学び，魅了され，高校留学を志しました。

どんな１か月になるかではなく，どんな１か月にあなたがするか。中学生，高校生での外国での大冒険は刺激的で濃く，いまの自分を叱咤激励してくれていると強く感じます。

「英語ができるか」より「本気で伝えよう・聞こう」とする想いと，最大限の感謝とともに，あなただけの特別な夏をつくってください。行ってらっしゃい！

Never lose a chance, always do your best.
（ラボ・ライブラリー GT21『十五少年漂流記』より）

浦岡信篤（高３／長崎県・国分浩子Ｐ）

2022年北米交流参加（アメリカ・ユタ州）
2024-2025年ラボ高校留学参加中（カナダ・ブリティッシュコロンビア州）

中３で参加した北米交流では，冷たくされたり，差別があったりするのかなと思っていたけれど，実際はそんなことはなく，あたたかく迎えてくれました。そのおかげでぼくのアメリカに対するイメージが変わりました。それまで留学なんて考えてもいなかったけれど，「行きたい！」と強く思うようになりました。北米交流で得たコミュニケーション力などをいかして，今は自分のやりたいことを積極的にやっています。

行くことに不安を感じている人もいると思いますが，国際交流を終えた後にはきっと成長した自分になっていると思います。英語をうまく話せなくても，ぜひ積極的にホストファミリーとたくさん話して，充実した夏にしてほしいです！

事前の準備活動 全国で開催中

☆…参加者一人ひとりの国際交流を有意義なものとするために，各地域で開催されている「事前活動」。そのほかにも，全国でさまざまな準備活動がおこなわれています。

オレゴン国際キャンプ　事前合宿

3/28~31　場所：ラボランドくろひめ（長野県）

野外活動体験の充実，装備の説明など，現地での活動を想定したプログラムが開催されました。

第 38 期ラボ高校留学 全国事前研修合宿

5/4 ~ 6　場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

高校留学参加者 13 名が参加。長期ホームステイや学校，安全管理についての説明，ラボ高校留学経験者の体験談，英語でのプレゼンテーションやケーススタディなどを実施。英語でのコミュニケーションを重視したプログラムが開催されました。

全国引率者合同会議

5/17~18　場所：ラボ教育センター　本社（東京都新宿区）

北米交流，ニュージーランド交流に対応する引率者（テューター・シャペロン28名，カレッジリーダー10 名，事務局スタッフ 12 名）が一堂に会し，引率者の役割と任務を確認。引率上の安全管理についてや，ケーススタディなどを実施しました。

みなさんの国際交流が充実するように引率者がサポートします。

ラボ国際交流 50年記念

☆…ラボ国際交流は日本と海外の青少年とホストファミリー，ひと組ひと組がゆっくりと時間をかけて交流を紡いできたプログラムです。それぞれの交流はひと夏だけのできごとにとどまるものではありません。

北米交流での出会いがつないださまざまな縁をご紹介いただきます。

吉田優子（ラボ OG・現保護者／愛知県・北谷美穂P）
1993 年北米交流参加（アメリカ・テネシー州）

ブライズメイドは，結婚式で花嫁をサポートする女性たちのこと。友人や親族がブライズメイドを務めることが多い

もう 30 年以上もの時が経ちますが，はじめて訪れたアメリカでの思い出は，今も鮮明に頭のなかで広がり，私の心をあたたかくしてくれます。見るものすべてが大きくてかっこよくて，出会う人だれもが笑顔で……。13 歳の私にとっては，ただただハッピーだったアメリカでの生活は，年月が経過するごとに，深い感謝，そして大きな意味のある経験だったのだと感じます。

私が「ウェディング関係の仕事がしたい」と考えるようになったきっかけは，13 歳で参列したアメリカでの結婚式の感動の記憶です。すてきな音楽，美しい花，テーマカラーはパステルイエローのおしゃれなテーブルセッティング，老若男女だれもが楽しそうにダンスをしている姿……。アメリカンスタイルの良さを日本の結婚式にも取りいれることができたら，と思ったのです。大学卒業後に専門学校に行きはじめた矢先，ホストから「結婚が決まったので，ブライズメイドになってほしい」と連絡がありました。本場のウェディングをまた経験できるチャンス！ と参列。新郎新婦だけではなく，家族・友人・参列者みんなが形式にとらわれず，自由に祝福して楽しんでいる姿が印象的でした。ブライダル業界で働きはじめてからも，日本のしきたりや形式もたいせつだけれど，なによりお客様の御要望や夢をかたちにできるように……と，このときに感じたことをいかしながら仕事をしていました。

ホストとは手紙，そしてメールのやりとりを続け，少し期間があいてしまった時期もありましたが，お互いの Mom も連絡を取りあってくれていました。年月が経ち，私も母となってから，娘とともに1か月ほどホストファミリーのもとに帰りました。学校や仕事，子育てや夫婦の話など，13 歳の頃とはまた違う話題で語りあった時間は，とても幸せでした。Facebook や Instagram を使うようになってからは，より近況がわかるようになり，気軽にメッセージを送りあっています。

もうひとつ，ホストと私をだれよりも愛してくれたそれぞれの祖父の話は，私たちにとって生きていくうえでの大きなパワー，ともいえるでしょう。第二次世界大戦を生き抜いたふたりの祖父。時代は移り変わったとはいえ，敵国だったアメリカに孫娘を送り出した私の祖父からは，ホームステイ中，毎日手紙が届きました。「感謝をみなさんに伝えなさい」という内容だったことを覚えています。そして，日本が大嫌いだったというホストの祖父。もちろんそんなことは当時は聞かされていませんでしたが，私に会った瞬間，やさしい笑顔で抱きしめてくれました。ふたりの祖父の愛が，平和をつくる小さなきっかけになるのだと感じます。

日々の生活のなかで感じる，価値観や環境の違いからくる人づきあいの難しさ。どんな壁にぶつかっても，あの夏の経験や，いただいたたくさんの愛で，私は前向きに生きていくことができています。

ホストの子どもたちと娘の新たな交流に，胸が熱くなった

東京言語研究所
公　開　講　座

3/16(日)

言語の主体性：あるSF作家の事例

©新潮社

円城 塔

1972年，札幌生まれ。ものかき。『道化師の蝶』で芥川龍之介賞，『Self-Reference ENGINE』でフィリップ・K・ディック賞特別賞，『文字渦』でSF大賞，所収作「文字渦」で川端康成文学賞受賞等。訳書に『SF的な宇宙で安全に暮らすっていうこと』（チャールズ・ユウ著），『怪談』（ラフカディオ・ハーン著）等。アニメーション作品『ゴジラS.P』脚本，SF設定等，ジャンルを問わず活動中。

ことばというものをどのように考えてきたか，お話させていただきました。ことばについては誰しも思うことがあるはずですが，自分が多少特殊であるのは，小説というかたちで日々，規定の原稿量を埋める仕事をしているところだと思います。

なんとなく通じていることになっているものでも，じつは人によってぜんぜん違う捉えかたがされているものはわりとあります。たとえば時間概念などはかなり異なります。これはSF作品をつくる相談などをしていると顕著になって，ある人にとってはつじつまがとれたことになっているらしいタイムマシンの設定が，別の人からはまったく受けいれられないものであったりします。未来は分岐するのか，とか，未来から過去へ戻ってきたときに何が起こるか，といった話でも「常識」の違いが顕著になったりするものです。

言語のなかだけで実現されるものについては，食い違いが大きくなりがちです。実際に確認してみることができないので。そうして意外に，説得が難しいものでもあります。実感なので。

自分の場合は，そうした思いこみなども含めて「言語のせいだ」という感覚が強くあります。言語でつくられたものがあり，それが思考を拘束するという感覚であり，「自分の主体はそちらにある」という意識もそれなりにあります。

自分の書く小説は「変」といわれることが多いのですが，こうした感覚が強く影響しているのは間違いないと思います。

自分がその周囲を巡り続けているテーマのひとつとして，「機械の人権」というものがあります。こうして考えてくるとそれは単に「言語自らの主張」というものを気にし続けているだけなのではないかという気が今，してきました。

そういうものを生みだしているのもまた，言語そのものであると，やはり言いたくなるのです。

東京言語研究所では，言語学を研究されている方や言語学に興味をおもちの方への「理論言語学講座」をはじめとして，毎年さまざまな講座を開講しています。公開講座はことばと関連した諸分野において第一線で活躍されている方を講師としてお迎えしています。

一般財団法人ラボ国際交流センター 理事会・評議員会報告

第54期（2025年4月1日～2026年3月31日）事業計画・収支予算を主たる議案とする理事会（理事10名，監事1名）が3月6日（木）に，評議員会（評議員9名，監事1名，理事2名）が3月21日（金）に，第53期（2024年4月1日～2025年3月31日）事業報告・収支決算を主たる議案とする理事会（理事10名，監事1名）が5月22日（木）に開催されました。会議は対面とオンライン併用でおこなわれ，すべての議案は全員異議なく議決されました。定時評議員会（評議員9名，監事1名，理事2名）は6月10日（火）に予定されています。

Go Ahead! No.186

当たり前と知らないこと

マッカーシー
内田えみ子
個人事業

1978年，中学1年生で参加したラボ国際交流では自分の知らない習慣の違いを感じ，わからないことは自分から聞かないと何もわからないままで，誰も教えてくれないということを感じました。自分が当たり前に思っていたことが当たり前ではないこと。知らないことだらけ，びっくりすることだらけでした。

いろいろなことを教えてくれたり，経験させてくれたホストファミリー。それは今でも私の糧になっています。時間が経ってから，彼らが私を守るためにどれだけいろいろとしてくれていたのかがよくわかります。国も違い，ことばもよくわからない私が人種差別にあわないようにとわが子のように守ってくれた愛情と受け入れてくれた愛情。ホストファミリーとはどんな人であれ，「守って受け入れる」ということを教えてくださいました。

現在，私はアメリカ人と結婚して，ミネソタ州とマサチューセッツ州で30年ほど暮らしております。

知らないことを経験し，アメリカの歴史，人種問題，宗教などいろいろなことに興味がわき，今でもわからないことは自分で聞いて，調べて，自分の「知識」としてたくさんの種を増やしています。また，アメリカで生活をしていて，母国ではない国で生活をするという心細さ，不安，ことばの違い，習慣の違いを経験したので，ほっと安心できる場所やほっとできる人の存在がいかにたいせつかと実感し，現在は個人で「アンティーズハウス」という，日本人女性およびそのご家族やお子さんたちの生活のサポート，感謝祭などホームパーティーへのお誘い，シングルマザーのお子さんのお預かりや，日本からやってくる中学生からおとなまでのホームステイの受入れをしています。

私もラボ国際交流でホームステイ中に短い期間ではありましたが，日本人女性との出会いがあり，とてもほっとした気持ちと安心感を覚え，とても力強い支えになりました。誰にでも心の支えは必要です。受け入れてくれる人がいること，ほっとできる場所があるという安心感はラボ・パーティにも同じことがいえると思います。

知らないことがほとんどの世界。知ったら「知識」，知らないは「無知」。

今あなたの「当たり前」に感謝して「当たり前ではない」ことを経験して，それを知識としてたくさん実らせて，糧にしてください。知らないことがほとんどの世界，自分で知ったら楽しくてワクワクする世界へ羽ばたいてください。

マッカーシー　うちだ　えみこ＝アンティーズハウス主催および代表（長崎県・谷山慶子パーティ OG）

Information

東京言語研究所

＜2025年度第1回公開講座のご案内＞

演題：未定
講師：藤井進也（慶應義塾大学准教授）
日時：6月14日 14：00～17：00
受講形式：対面（先着20名）およびZoomによるオンライン講義併用

＜2025年度 理論言語学講座のご案内＞

◎前期　5月12日より10週間（終了日は科目によって異なります）
※祝祭日は休講
認知言語学／実験音声学／生成文法／言語学概論／調音音声学／日本語文法理論／史的言語学

◎夏期集中
日時：8月8日～10日
言語類型論
講師：長屋尚典（東京大学准教授）

日時：8月15日～17日
言語心理学
講師：広瀬友紀（東京大学教授）

◎後期　9月29日より10週間（終了日は科目によって異なります）
※祝祭日は休講
認知言語学／語用論／生成文法／言語学概論／音韻論／日本語文法理論／意味論／社会言語学

※くわしくはウェブサイトをご覧ください
https://www.tokyo-gengo.gr.jp/

「ラボの世界」第309号／発行所：一般財団法人ラボ国際交流センター　〒169-0072 東京都新宿区大久保1-3-21　TEL.03-6233-0630　FAX.03-6233-0633
発行人：林 浩司／発行日：2025年6月5日（年4回発行）